

中国少数民族男子履きものの固有属性による 文化クラスター

下田 敦子, 大澤 清二, 笠井 直美, 近藤 四郎*

(大妻女子大学人間生活科学研究所, * 京都大学霊長類研究所名誉教授)

原稿受付平成9年3月27日; 原稿受理平成9年11月25日

Cultural Cluster for Attributes of Men's Footwear of Ethnic Group in China

Atsuko SHIMODA, Seiji OHSAWA, Naomi KASAI and Shiro KONDO*

Institute of Human Living Sciences, Otsuma Women's University, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357

** Emeritus Professor, Primate Research Institute, Kyoto University, Inuyama 484-8506*

We studied the attributes of men's footwear of 16 Chinese ethnic groups using cluster analysis. Footwear was divided into three cultural clusters, merged into cluster I (including Chuang, Pai, Miao, Yi, Naxi, and Chiang), cluster II (including Kazakh, Uygur, Kirghiz, Mongol, Tibetan, Dongxiang, and Xibo), and cluster III (including Han, Daur, and Manchu).

Footwear from southwestern China, merged in cluster I, is suited for agricultural labor in steep and flat arable land. Sandals and slippers characterize this cluster's footwear. Footwear in cluster II, from northwestern China, is suited for stock raising, especially for horseback riding. Most footwear in cluster II consists of long leather boots. Footwear (short boots), from northwestern China, in cluster III, is suited for cold forest hunting. One feature of this footwear is its warmth.

The results of this study show that the attributes of men's footwear in Chinese ethnic groups correctly reflect differences in occupations and living environments.

(Received March 27, 1997; Accepted in revised form November 25, 1997)

Keywords: ethnic groups in China 中国少数民族, men's footwear 男性履きもの, attribute 固有属性, cluster analysis クラスター分析, occupation 生業, living environment 生活環境.

1. 緒言

世界最古の履きものは古代エジプト古王国(約5,000年前)で王侯, 僧侶, 戦士が地位と権威の象徴として用いたサンダルであった。それは熱帯の灼けた地面から足を保護するためではなかったという¹⁾。これに対して, わが国最古の履きものは弥生時代の田下駄であるが, これは農具としての機能をもった履きものであって, 前者のサンダルのような装飾性を全くもっていない²⁾。このように履きものには装飾性と機能性の両義性が存在し, それらは履きものの形態的外観としても観察することができる。

従来, 履きものの装飾性と機能性に関しては人類学, 民俗学, 被服学, 整形外科学, スポーツ科学などの分野で多角的な研究がなされている。しかし, 履きもののもつ形態的な特徴を固有属性の視点から取り扱った研究はきわめて少ない。

本研究では中国少数民族と漢族の伝統的履きものに見られる固有属性を比較検討することによって, 履きものもつ地域分布的特徴を明らかにし, 併せてクラスター分析による文化クラスターの構成³⁾を検討した。

2. 研究方法

対象民族は, 中国西北部のアルタイ山脈から^{クンルン}崑崙山脈に分布するハザク族, ウイグル族, キルギス族, シボ族, 黄土高原から青藏高原に分布するチベット族, トンシャン族, 北部の通称ゴビ砂漠, 内モンゴル高原に分布するモンゴル族, 東北平原に分布するマンシュウ族, ダフル族, 西南部の四川盆地から雲貴高原に分布するチワン族, パイ族, メオ族, イ族, ナシ族, チャン族, そして, 中国全土に分布するカン(ハン)族である。これら16民族の伝統的な男子履きものの固有属性について調査した。

表1に特に履きものとの関連を考慮して、主たる居住地域、気候、人口、生業、言語、宗教を示す。

中国56の民族集団について十分な資料収集を行うべきことは研究上理想的である。しかし、本研究で取り上げた民族の国立民族学博物館(以下、民博と言う)資料だけをとっても数十年かけて組織的に収集したものであって、現実にはすべての履きもの資料をすべての民族にわたって十分に扱うことは困難である。また、アチャン族、ドアン族、トールン族、タイ族のように、中国には裸足で生活する民族が多数存在し、これらの民族は研究対象から除外せざるを得ない。また、台湾だけに居住する民族も台湾が大陸中国以外であるという理由から除外した。さらには、大陸中国の民族のうちから人口が10万人未満の民族は、多くの中国国内の民族比較研究と同様に、今回の研究対象から除外した。また、中国全土に各民族集団が十分な地理的な広がりをもつように配慮しつつ、残る民族集団の中から人口規模を考慮して(その順序に従って)研究対象を選定した。

ここでは民族が中国解放前から利用してきた伝統的な履きもののみを対象としており、解放後に入ってきたプラスチックやゴム製の履きものは除外している。

(1) 資料

本研究で取り扱った各民族の履きもの資料数を、表2に示す。

調査対象とした原資料は、①筆者らが文部省海外科学研究費補助金日中共同研究によって、中国の雲南省昆明、大理、シーサンパンナ地域、新疆ウイグル自治区ウルムチ、トルファン、北京市民族文化宮、上海博物館にて収集した履きもの資料、②民博に収蔵されている履きもの資料である。これらは民博が、民族文化宮に依頼して収集しているものが主であり、その多くは実際に日常使用されていたものである。

なお当該民族の資料であることの確認は、現地において行うほか、出来るかぎりの文献資料により行った。

(2) 分類方法

中国諸民族の伝統的民族服と同様に、履きものにも他民族から自民族を明確に識別し、その独自性を表現するような文化要素が内在し、それを固有属性と言うことができる。このような意味から、本研究において言う固有属性とはそれぞれの民族のもつ履きもの固有の特徴のことである。

1) 履きものの固有属性

大丸⁴⁾は衣服標本を分類するに際して固有属性を利用し、その際に用いる標識として以下の7項目をあげた。「色マーク」「丈マーク」「形態マーク」「布地特性マーク」「素材マーク」「構成技術マーク」「部位マーク」である。

本研究では大丸の固有属性分析による衣服標本カタログの分類の方法⁴⁾を参考として、収集資料を吟味検討した結果、中国諸民族の履きものの特徴から37の固有属性を抽出した。ただし上記7標識のうち「色マーク」については、扱った資料が標本、写真、文献中の写真など一定ではなく、識別にも困難であることからこれを除外した。「丈マーク」については履きもの場合は、垂直方向の長さ、つまり足くびから上を被う部分と定義し「形態」に含めて扱った。「布地特性マーク」については「履きもの装飾性」として扱った。「構成技術マーク」については「縫合技術」として扱った。また、収集資料を検討した結果として「間隙性」を加えた。

本研究では足に着装し、またはそれを被い包むものを「履きもの」と総称し、固有属性の名称についてはできるだけ中国の文献に従った。

2) 履きものの固有属性と分類(表3参照)

履きものの固有属性の分類を行うにあたり、表3に示すように形態、履きもの装飾性、素材、縫合技術、部位属性、間隙性を取り上げ、さらに以下のように細分類した。

A. 形態(表3のA): 履きものは足の甲を露出しているか被っているかで開放性履きものと閉塞性履きものに大別できる¹⁾。開放性履きものとは、履きもの台部と足を鼻緒や横バンドで固定したサンダル(A1)が代表であり、草履や下駄もこれに含まれる。一方、閉塞性履きものとは、履きものの底部と足を甲被で固定したものであって、ここでは表3の(A2-1)のように、甲被が足部から膝関節部にかけて連続して被っている形態のものを長ぐつとし、(A2-2)のように甲被が足部から下腿部ふくらはぎの下縁あたりまでを連続して被っている形態を短ぐつとした。さらに閉塞性履きものは(A2-3)のように、甲被が爪先から踵までの足部の外周辺を浅く取り巻くようにして被っている形態のものを浅ぐつとした。また、(A2-4)のように、甲被が爪先から踝上縁までの高さで被ったものを深ぐつとした。

B. 履きもの装飾性(表3のB): 履きもの地に刺

表 1. 16 民族の主な居住地域、気候、人口、生業、言語、宗教

民族	居住地域	気候	人口	生業	言語	宗教
チワン	広西壮族自治区、雲南省、広東省、貴州省	亜熱帯性気候	15,555,820	農業	シナ・チベット語系 チワン・トン語族 チワン・タイ語支	祖先崇拜, 自然崇拜を含む多 神教
パイ	雲南省, 湖南省	亜熱帯性気候	1,598,052	農業	シナ・チベット語系 チベット・ビルマ語族 ビルマ語支	本主教, および仏教
メオ	貴州省, 雲南省, 湖南省, 広西壮族自治区, 四川省, 広東省, 湖北省	亜熱帯性気候, 熱帯性気候	7,383,622	農業	シナ・チベット語系 メオ・ヤオ語族 メオ語支	自然崇拜, 精霊崇拜, 祖先崇拜
イ	四川省, 雲南省, 貴州省, 広西壮族自治区	亜熱帯性気候, 熱帯性気候	6,578,524	農業	シナ・チベット語系 チベット・ビルマ語族 イ語支	自然崇拜, 祖先崇拜, 近年では天主教, キリスト教
ナシ	雲南省, 四川省	亜熱帯性気候	277,750	農業	シナ・チベット語系 チベット・ビルマ語族 イ語支	東巴教
チャン	四川省	亜熱帯性気候, 青蔵高原地域性気候	198,303	農業, 牧畜	シナ・チベット語系 チベット・ビルマ語族 ビルマ語支	ラマ教, 多神教
ハザク	新疆ウイグル自治区, 甘粛省	中温帯性気候, 青蔵高原地域性気候	1,110,758	牧畜, 農業	ウラル・アルタイ語系 突厥語族 西匈語支	イスラム教
ウイグル	新疆ウイグル自治区, 湖南省	中温帯性気候, 暖温帯性気候, 青蔵高原地域性気候, 亜熱帯性気候	7,207,024	牧畜, 農業	ウラル・アルタイ語系 突厥語族 西匈語支	イスラム教
キルギス	新疆ウイグル自治区	中温帯性気候, 青蔵高原地域性気候	143,537	牧畜, 農業	ウラル・アルタイ語系 突厥語族 東匈語支	イスラム教, ラマ教
モンゴル	内モンゴル自治区, 遼寧省, 新疆ウイグル自治区, 吉林省, 黒竜江省, 青海省, 河北省, 河南省, 甘粛省, 雲南省	中温帯性気候, 暖温帯性気候, 青蔵高原地域性気候	4,802,407	牧畜, 狩猟 一部農業	ウラル・アルタイ語系 モンゴル語族	ラマ教
チベット	チベット自治区, 四川省, 青海省, 甘粛省, 雲南省	青蔵高原地域性気候	4,593,072	農業, 牧畜	シナ・チベット語系 チベット・ビルマ語族 チベット語支	ラマ教
トシヤン	甘粛省, 新疆ウイグル自治区	中温帯性気候	373,669	農業	ウラル・アルタイ語系 モンゴル語族	イスラム教
シボ	新疆ウイグル自治区, 遼寧省	中温帯性気候	172,932	牧畜, 狩猟 一部農業	ウラル・アルタイ語系 マン・ツングース語族 マン語支	薩満教, ラマ教
カシ	全国各省, 市, 自治区	寒温帯性気候, 中温帯性気候 暖温帯性気候, 青蔵高原地域性気候, 亜熱帯性気候, 熱帯性気候	1,039,187,548	農業, 手工業 商業	シナ・チベット語系 カン語	仏教, 儒教, 道教
ダフル	内モンゴル自治区, 黒竜江省, 新疆ウイグル自治区	中温帯性気候, 暖温帯性気候	121,463	狩猟, 一部農 業	ウラル・アルタイ語系 モンゴル語族	薩満教, ラマ教
マンシュウ	遼寧省, 吉林省, 黒竜江省, 河北省, 北京市, 内モンゴル自治区	中温帯性気候	9,846,776	狩猟, 農業	ウラル・アルタイ語系 マン・ツングース語族 マン語支	薩満教

引用文献 「中国少数民族概観」¹⁹⁾, 「民族詞典」²⁰⁾, 「世界地理 2 東アジア」²¹⁾, 「中国民族統計年鑑」²²⁾, 「文化人類学事典」²³⁾, 「中国少数民族の信仰と習俗 上・下」²⁴⁾²⁵⁾, 「中華民族」⁶⁾.

表2. 履きもの資料の構成

民族名	計	原資料	写真および 絵画資料	文書資料*
チワン族	2		2	2
パイ族	6	2	4	3
メオ族	6	3	3	4
イ族	6	1	5	4
ナシ族	3		3	3
チャン族	3		3	12
ハザク族	8	4	4	11
ウイグル族	4		4	10
キルギス族	6	3	3	7
モンゴル族	6	4	2	20
チベット族	12	4	8	25
トンシャン族	4	1	3	
シボ族	6	2	4	3
カン族	13	12	1	15
ダフル族	4		4	10
マンシュウ族	4	2	2	6
計	93	38	55	135

*文書資料は分類にあたって当該固有属性について明瞭に記述のあった文献の数で、固有属性の有無の判断を確認するための補助資料である^{8)~20)26)~28)}。

繡、アップリケ、縁飾りなどがあるか否かで、装飾あり (B1) と装飾なし (B2) に分類した。

C. 素材 (表3のC) : 周と高⁵⁾によれば、中国古代の靴の種類は大変多く、それらの具体的な区別は主として材質と造形の両面から行われている。さらに材質については布、草、皮の3種類に大別している⁵⁾。本研究ではその分類方法を基本として、植物繊維、動物繊維のいずれにしても、燃った後に織りをかけたものを布素材 (C1-1)、燃った後に編んだものを編み素材 (C1-2) とした。鞣しの有無を問わず動物性の皮を皮素材 (C1-3) と分類した。

また、それらの素材を単数で使用している場合には、単数地 (C2-1)、異素材を組み合わせている場合には複数地 (C2-2) とした。

D. 縫合技術 (表3のD) : 収集資料を検討した結果、縫合あるいは接合箇所を甲部中央 (D1)、甲部周辺 (D2)、踵 (D3)、両踝下 (D4)、モカシン (D5) の5分類とした。特にモカシンは1枚の素材で足を包み込み、紐状のもので甲部周辺を絞り込んだものとした。これはアメリカインディアンのモカシン (moccasin)¹⁾の縫合技術を基本とした。

E. 部位属性 (表3のE)

① 先端形状 : 丸みのあるものを円頭 (E1)、角のあるものを方頭 (E2)、先端の形状が尖って反り上がっているものを小頭 (E3-1) とし、小頭よりもさらに高く反り上がっているものを高頭 (E3-2) と分類した⁵⁾。また、先端の形状が前方に突き出ているものを突出 (E3-3) とした。先端の形状は履きものの爪先を横や真上から見て円頭、方頭、小頭、高頭、突出と判断するが、爪先がない開放性履きものについては、履きもの台部の形状で判断した。

② 台 (底) 部 : 本研究では履きものの底を、開放性履きものでは台部とし、閉塞性履きものでは底部とした。そして、台 (底) 部の踵の部分だけに高さがついているものを踵あり (E4) とし、ないものを踵なし (E5) とした。一方、台 (底) 部全体が高くなっているものを底高 (E6) と分類した。

③ 甲被 : 履きものは、足の甲を露出しているか甲被で被っているかによって、開放性履きものと閉塞性履きものに大別される¹⁾。本研究では甲被が爪先から踵までの足部の外周辺を浅く取り巻くようにして被覆された状態を甲部半分 (E7-1)、甲被が爪先から踝上

表3. 中国諸民族の履きものの固有属性分類

A 形態	B 履きものの装飾性	C 素材	D 縫合技術	E 部位属性	F 間隙性			
				①先端形状	②台(底部)	③甲被	④履き口	
A1 サングル	B1 装飾あり	C1-1 布素材 ※図省略	D1 甲部中央	E1 円頭	E4 踵あり	E7-1 甲部半分	E9-1 水平	F14 甲部
A2-1 長ぐつ	B2 装飾なし	C1-2 編み素材 ※図省略	D2 甲部周辺	E2 方頭	E5 踵なし	E7-2 甲部全体	E9-2 斜め	F15 履き口
A2-2 短ぐつ		C1-3 皮素材 ※図省略	D3 踵	E3-1 小頭	E6 底高	E8 留め具	E10 段差	F16 先端
A2-3 浅ぐつ		C2-1 単数地	D4 両踵下	E3-2 高頭			E11 つまみ	
A2-4 深ぐつ		C2-2 複数地	D5 モカシン	E3-3 突出			E12 スリット	
							E13 折り返し	

縁まで被覆された状態を甲部全体 (E7-2) とした。また、開放性履きものでは鼻緒や横バンドなどの留め具が台部と足を固定する役割を担っているため、留め具 (E8) という分類も設けた。

④ 履き口：足に着装された履きものを横から観察したときに履き口が、床面に対して水平 (E9-1) であるもの、斜めであるもの (E9-2)、段差があるものを段差 (E10) とした。この他につまみ (E11)、スリット (E12)、折り返し (E13) などを分類した。開放性履きものは水平として扱った。

F. 間隙性 (表3のF)：先端が反り上がった履きものは先端の部分に空気がたまり保温性が高まる⁶⁾。ここでは着装した際、履きもの内の空気のたまる量が多い部分を、足くびまでを含む甲部 (F14)、履き口 (F15)、先端 (F16) の三つに分類した。

なお各民族ごとの複数の資料のうちで1資料でも該当する固有属性をもつ場合には、当該民族はその固有属性を「有」とした。したがって「無」とされた場合には、その民族の履きもののいずれをとっても当該の固有属性が見出されないことを意味する。

(3) 解析方法

1) クラスター分析

16民族について、それぞれの履きものの固有属性を「形態」「履きものの装飾性」「素材」「縫合技術」「部位属性」「間隙性」の各カテゴリごとに分類し、これを数量化 (当該属性がある場合には1、ない場合には0) した。それらのダミー変数情報をもとに民族間の距離行列をマハラノビスの汎距離によってもとめ、これを手掛かりとして average 法によるクラスター分析を行った。なお、解析には SPSS を用いた⁷⁾。

3. 結果と考察

(1) 履きもの固有属性のクラスター分析

履きもの固有属性をクラスター分析して得た結果を、民族クラスターのデンドログラムとして図1に示す。

16民族はそれらごもつ履きものの固有属性によって三つのクラスターを構成している。これらのクラスターをそれぞれ履きもの圏Ⅰ、履きもの圏Ⅱ、履きもの圏Ⅲと命名して、それらに属する各民族の履きもの特色を固有属性の点から吟味検討した。また、図2～

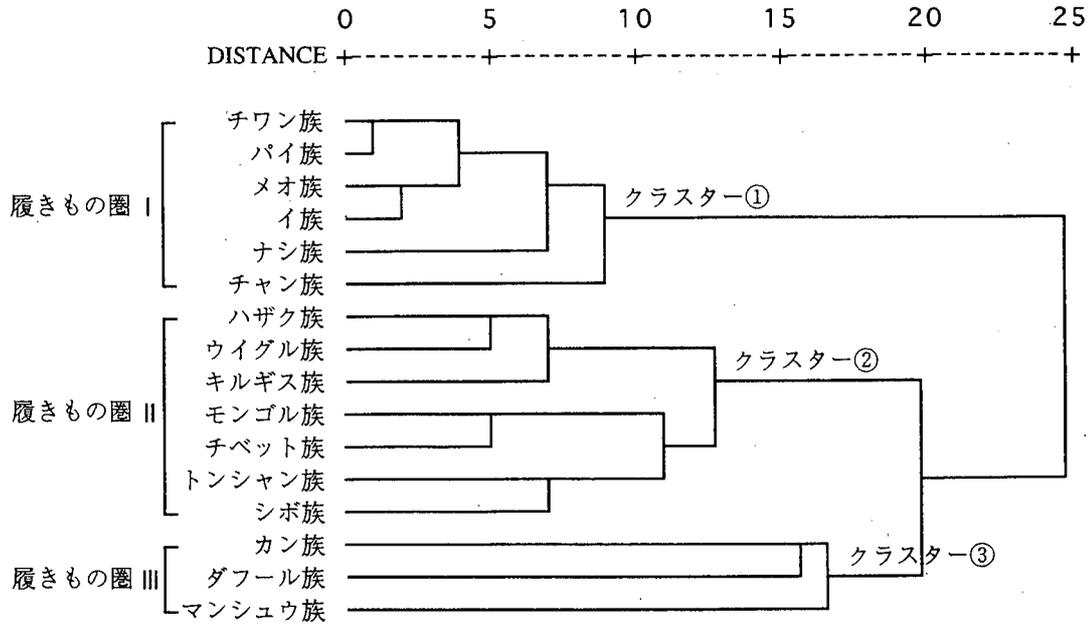


図1. 履きもの固有属性による16民族のクラスター分析

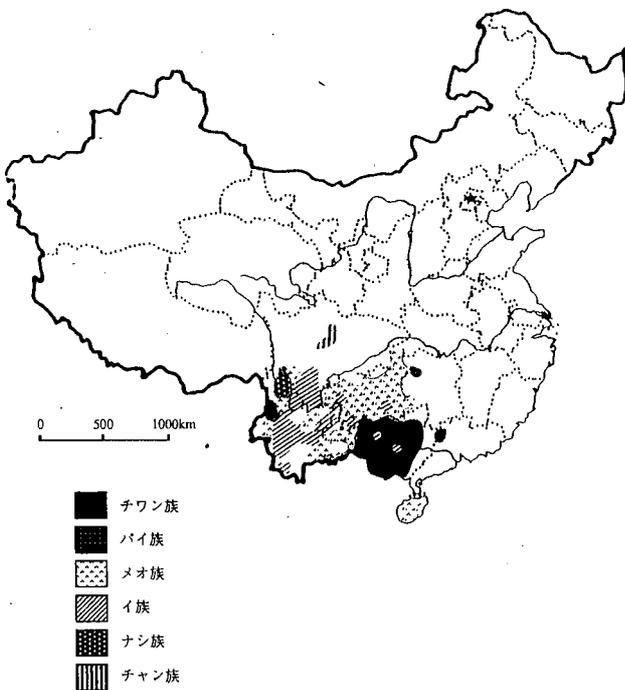


図2. 「履きもの圏 I」の民族分布

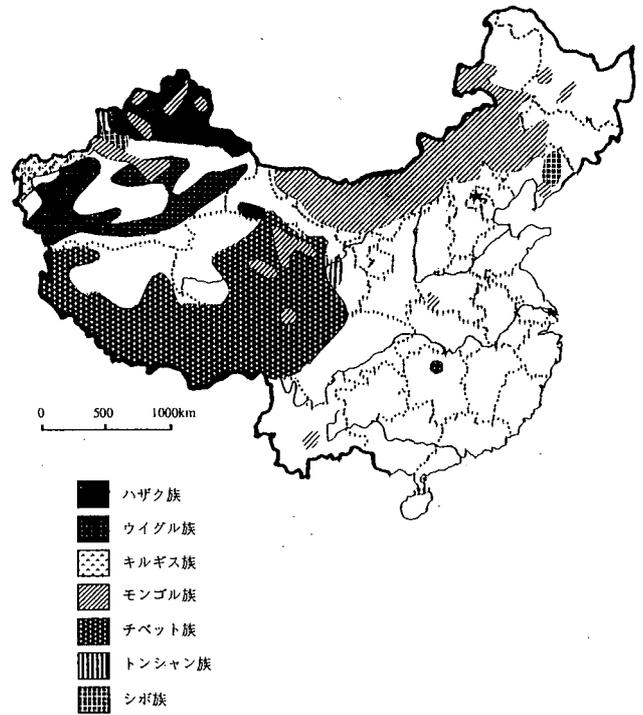


図3. 「履きもの圏 II」の民族分布

4から知られるように、履きもの圏Iは主に中国西南地方の雲南省、四川省、貴州省、広西壮族自治区に分布する民族によって構成されている。西南地方は亜熱帯に属する山岳丘陵地帯である。ここに居住する民族は、主に水利には不便な山肌を利用して焼畑農耕を営んできた。また、履きもの圏IIは主に西北地方の新疆ウイグル自治区、内モンゴル自治区、チベット自治区、

青海省、四川省に分布する民族によって構成されている。ここに居住する民族は、草原をもとめて移動する遊牧民族であるが、現在では定住化もすすんでいる。履きもの圏IIIは主に東北地方の黒竜江省、吉林省、遼寧省に分布する民族（カン族は全国に分布）によって構成されている。東北地方の北部は農業地帯、南部は重工業基地、東部山地は大発電地帯である。漁労も盛

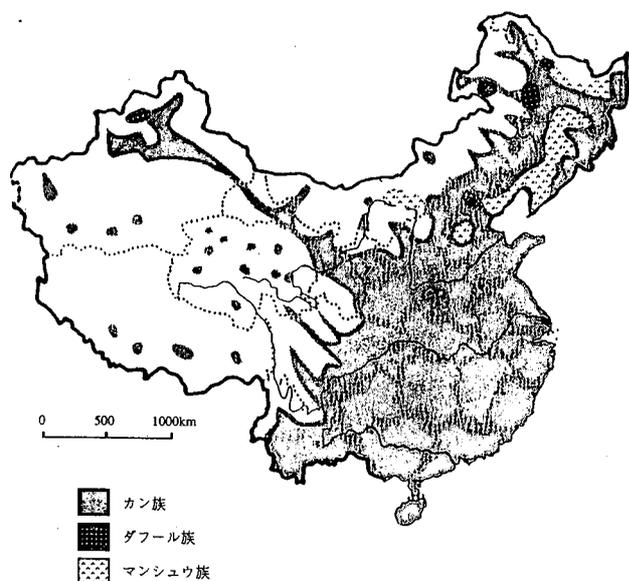


図4. 「履きもの圏Ⅲ」の民族分布

んに行われ、木材の蓄積量も豊富な地域である。

1) 履きもの圏Ⅰの特徴

履きもの圏Ⅰにはチワン族、パイ族、メオ族、イ族、ナシ族、チャン族が属している(図1)。これらの民族は主に中国西南地方に分布している。また、図1からもわかるように、履きもの圏Ⅰは他の履きもの圏に比してクラスター内での類似性が特に高い傾向にあり、きわめてよく似た履きものであることを認めることができる。

この履きもの圏では、サンダルや浅ぐつを履く。

サンダルの材料は植物繊維、皮、布である。先端の形状は円頭で、履き口は水平である。台部にはヒールがなく、甲被と足を固定するための留め具がある。

イ族、パイ族(図5-1)のサンダルは儀礼や祭りなどの特別な日に履かれるもので、親ゆびの部分に飾りが付いていたり、花や渦巻き紋様の刺繍が施されている⁸⁾。パイ族は農作業をする際には、植物繊維を編んだサンダルを履く。最近ではプラスチック製のサンダルも履く⁹⁾。メオ族もゴム製のサンダルを履く¹⁰⁾がこれらは本研究では扱っていない。

浅ぐつの材料は布である。先端部分は、底部には接着せず、床面から離れて前方に突出している。先端の形状には、小頭、円頭がある。小頭の場合、縫合箇所は甲部中央と踵の2カ所で、円頭の場合では踵のみである。また、いずれの場合も、甲被が爪先から踵までの足部の外周辺を浅く取り巻くようにして被っている。底部は全体に高く、履き口は水平である。

イ族の浅ぐつは黒色の布地に、赤、黄、緑色の花、鳥、獣、幾何学紋様の刺繍が施されている⁸⁾。チャン族の浅ぐつは「雲雲鞋」と言われるもので、刺繍された雲紋様には「雲に乗ったように歩きたい」という山岳地帯に居住する民族の願望が込められている¹¹⁾。刺繍が施される履きものは装飾性が高まる。また、摩擦しやすい部分に刺繍を施すことで、履きものを保護することができる¹¹⁾。

ナシ族⁹⁾¹²⁾¹⁴⁾、チャン族⁹⁾¹²⁾の履きものには、チベット族の影響を受けた長ぐつがあり、同クラスター内では特徴的である。

履きもの圏Ⅰで履かれているこれらのサンダルや浅ぐつは、西南地方での険しい山地やわずかな平地を利用した農業生活に適したものである。

2) 履きもの圏Ⅱの特徴

履きもの圏Ⅱにはハザク族、ウイグル族、キルギス族、モンゴル族、チベット族、トンシャン族、シボ族が属している(図1)。これらの民族は主に中国西北地方に分布している。また、図1からもわかるように、履きもの圏Ⅱは履きもの圏Ⅰに比してクラスター内での類似性が互いに低い傾向にある。つまりハザク族、ウイグル族、キルギス族のサブクラスター、モンゴル族、チベット族のサブクラスター、トンシャン族、シボ族のサブクラスター間には、少しずつ異なった特徴があると考えられる。

この履きもの圏では長ぐつを履く。

ハザク族、ウイグル族の長ぐつの材料は、家畜や狩猟によって得た動物の皮である。装飾はない。縫合は、甲部周辺、踵、両踝下で行われる。先端の形状には円頭、高頭があり、いずれも底部の形状と規則的な対応をしている傾向がある。円頭のように爪先が水平な履きものにはヒールがあり、高頭のように爪先が反り上がった履きものは、底部全体が高くなっている。履き口には水平、斜めがある。

ウイグル族、ハザク族は、長ぐつの他に皮製の深ぐつも履く。ウイグル族は、年齢を問わずそれらを履き¹⁵⁾、また、季節によって履き替える⁹⁾。ハザク族は防水用のゴム製の深ぐつを、長ぐつの上から履く¹³⁾。

キルギス族の長ぐつの材料は、牛や羊の皮である。特に牛の皮で作られた履きものを「巧考依」と言う⁹⁾¹⁶⁾。

モンゴル族(図5-2)、チベット族の長ぐつは装飾性が高く、同クラスター内のハザク族、ウイグル族、キルギス族と異なっている。

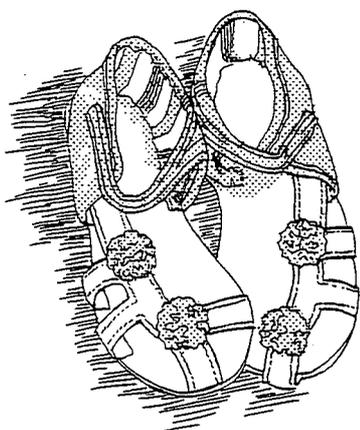


図 5-1. パイ族のサンダル



図 5-2. モンゴル族の長ぐつ

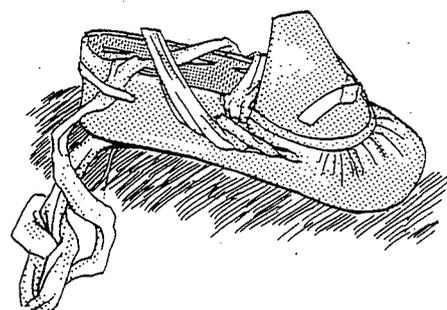


図 5-3. マンシュウ族の深ぐつ

牧畜に従事するモンゴル族は、皮製の「唐吐馬」という短ぐつを履く。履きもの地には、雲や植物、幾何学紋様の装飾が施されている。馬に乗るための短ぐつには装飾がない¹⁵⁾。一方、農業や半農半牧に従事するモンゴル族は、長ぐつをあまり履かない¹⁷⁾。

モンゴル族の短ぐつの先端は、居住環境によって異なった目的をもっている。高頭は砂漠を歩くのに適している。小頭は乾いた草原を歩くのに適しており、円頭や方頭のように水平な履きものは、湿潤な草原を歩くのに適している¹⁶⁾¹⁸⁾。また、ハザク族やウイグル族と同様に、先端の形状が底部と規則的な対応をしている傾向がある。円頭、方頭のように爪先が水平な履きものにはヒールがあるが、小頭、高頭、突出のように爪先が反り上がった履きものにはヒールがなく、底部全体が高くなっている。

チベット族は長ぐつを履く。材料は「氍毹」と言う厚手の毛の素材で、黒、紫、赤、緑色などがある。先端の形状には方頭、円頭、小頭がある。底部の材料には、牛の毛を撚って縄にしたものが使われる。足くびから上部は軟質で、履き口後部には十数 cm のスリットがある¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁸⁾。

トンシャン族、シボ族の長ぐつの材料は硬質な皮である。先端の形状には円頭、小頭があり、底部は全体に高い。履き口には水平、斜めがある。これらの特徴は同クラスター内のハザク族、ウイグル族と類似しているが、先端部分が前方に突出し、ヒールがないという点においては、モンゴル族やチベット族と類似している。

履きもの圏Ⅱで履かれているこれらの長ぐつは、牧畜を中心とした生活、特に乗馬するために適したものである。

3) 履きもの圏Ⅲの特徴

履きもの圏Ⅲにはカン族、ダフル族、マンシュウ族が属している(図1)。これらの民族は主に東北地方に分布(カン族は全国に分布)している。また、図1からもわかるように、履きもの圏Ⅲはクラスター内での類似性は他の履きもの圏に比して互いに低いといえる。

この履きもの圏では深ぐつ、長ぐつおよび短ぐつを履く。

カン族は全国に分布しており、また、履きもの種類も多い。カン族は防寒に、皮製の「靴鞋」と言う短ぐつを履く。保温性を高めるために、履きもの内に藁草に似た「靴草」を入れる。また、深ぐつには布製の「千層底」と言われる履きものがある¹⁹⁾。最近の深ぐつは、スニーカーのように甲部中央にはあきがあり、底部と先端の材料がゴム製である⁹⁾¹³⁾。この他には皮製の長ぐつがある。先端の形状は円頭で、ヒールがあり、履き口は斜めである。履きもの内の間隙は甲部、履き口、先端に認められる。

カン族のサンダルの材料は植物繊維であり、農作業の際に履く⁹⁾。最近ではプラスチック製のものが主流になってきている¹³⁾。雨天には、材料が皮の深ぐつを履く。底部には滑り止めの鉄の突起がある⁹⁾。これらは南方でみられる履きものである。

ダフル族は防寒に、「其卡米」と言う短ぐつを履く。甲部の材料はノロの皮、底部の材料はヘラジカや牛の皮であり、装飾が施されている¹⁹⁾。先端の形状は円頭で、甲部中央のあきはループで留める。また、短ぐつにはモカシン縫合もある。深ぐつは、黄色の布に黒色の刺繍が施されている¹⁷⁾。

マンシュウ族はカン族と同様に、短ぐつの「靴鞋

鞋」を履く¹³⁾。深くつ(図5-3)の材料は鞣した皮である。縫合はモカシンで、紐状の布で甲部を絞り込んでいるため、甲部や先端の保温性が高い。先端の形状は円頭で、ヒールはない。この他に長ぐつ、浅ぐつがある。

マンシュウ族の履きものの先端の形状には方頭、小頭がある。元来、先端の形状が方頭である履きものは貴族が朝廷に出勤する際に履いた。この履きものの材料は緑色の布で、先端には装飾がある。また、先端の形状が小頭である履きものは、狩猟に適している¹⁶⁾。

履きもの圏Ⅲで履かれているこれらの深くつ、長ぐつおよび短ぐつは、主に森林地帯での狩猟を中心とする生活に適したものである。

(2) 履きもの圏の比較

次に各履きもの圏における履きもの固有属性の相対頻度を表4に示し、各項目ごとに三つの履きもの圏の特徴を比較した。

三つの履きもの圏に共通する履きもの固有属性は、縫合技術のうち踵(D3)、先端形状では円頭(E1)、履き口では水平(E9-1)の三つである。これらは中国諸民族の履きものに共通した固有属性といえることができる。

1) 形態からみたクラスター間の比較

履きもの圏Ⅰではサンダル(A1)と浅ぐつ(A2-3)が頻度が高い。浅ぐつは爪先から踵までの足部の外周辺を浅く取り巻くように被覆されていて、閉塞性履きものの中でも開放性履きものサンダルのように露出度が高く、容易に履くことができる。このような点から、履きもの圏Ⅰでは開放的な履きものを履く傾向が強いといえる。

反対に、履きもの圏Ⅱでは長ぐつ(A2-1)が、履きもの圏Ⅲでは深くつ(A2-4)、長ぐつ、短ぐつ(A2-2)が頻度が高い。したがってこの二つの履きもの圏では閉塞性履きものを履く傾向が強いといえる。

2) 履きもの装飾性からみたクラスター間の比較

履きもの圏Ⅰは、装飾あり(B1)、履きもの圏Ⅱでは装飾なし(B2)がいずれも頻度が高い。一方、履きもの圏Ⅲは、装飾ありと装飾なしがいずれも頻度が高い。

3) 素材からみたクラスター間の比較

履きもの圏Ⅰでは、通気性がよく水はけのよい布素材(C1-1)、編み素材(C1-2)や、皮素材(C1-3)、単数地(C2-1)が頻度が高い。これは同形態の履きものでも目的や用途によって素材が異なるということ

を示している。また、それらの素材は単一で用いられる傾向が強い。一方、履きもの圏Ⅲではすべての項目において頻度が高い。これは履きもの圏Ⅰとは異なり、異素材を組み合わせる傾向が強いということを示している。したがって履きもの圏Ⅲは履きもの圏Ⅰに比して履きものが多様であるといえる。履きもの圏Ⅱは皮素材、単数地のみ頻度が高い。

4) 縫合技術からみたクラスター間の比較

履きもの圏Ⅰでは甲部中央(D1)が頻度が高い。この縫合によって先端が反り上がるため、主に小頭の履きものに認められる。円頭のように水平な履きものは、甲部中央の縫合はほとんど行われていない。一方、踵(D3)の縫合は小頭、円頭の履きものいずれにも認められ、小頭のように縫合箇所が甲部中央と踵に認められる場合は、履きもの地は同型の2枚地からなり、円頭のように縫合箇所が踵だけの場合は、履きもの地は1枚地からなる(ともに底部を除く)。

履きもの圏Ⅱでは、他の履きもの圏には認められない甲部周辺(D2)と両踝下(D4)が頻度が高い。特に甲部周辺の縫合は長ぐつに認められる。

履きもの圏Ⅲでは、モカシン(D5)が頻度が高い。履きもの圏Ⅱと履きもの圏Ⅲではいずれも閉塞性履きものを履く傾向が強いが、大きく異なっている点はこのモカシンが履きもの圏Ⅲに多いことである。

5) 先端形状からみたクラスター間の比較

人間は履きものを履いて歩行する際に、足ゆびを開きながら履きものの中を握むようにして蹴り出しが行われる¹¹⁾。三つの履きもの圏に共通して頻度が高い円頭(E1)の履きものは、こうした足ゆびの動きを妨げない形状である。

小頭の履きものは、履きもの圏Ⅰと履きもの圏Ⅲで頻度が高い。しかし、両者は製造工程が異なっており、履きもの圏Ⅰの浅ぐつに認められた小頭(E3-1)の履きものは、同型の2枚の履きもの地を甲部中央で縫合することによってできる。一方、履きもの圏Ⅲで認められた小頭の履きものは、モカシンの縫合によってできる。また、低い頻度ではあるが、小頭の履きものは履きもの圏Ⅱにおいても認められた。先述したように、小頭、高頭、突出の履きものは民族によって異なった目的をもっており、装飾的にもたいへんおもしろい。こうした先端の反り上がった履きものは、中国諸民族の履きものの特徴といえる。

6) 台(底)部からみたクラスター間の比較

履きもの圏Ⅰと履きもの圏Ⅲは、前者が開放性履き

表4. 各履きもの圏における履きもの固有属性の相対頻度の比較

			履きもの圏	履きもの圏	履きもの圏	
			I	II	III	
A. 形態	A1	サンダル	●	—	△	
	A2-1	長ぐつ	△	●	○	
	A2-2	短ぐつ	—	△	○	
	A2-3	浅ぐつ	●	—	△	
	A2-4	深ぐつ	—	△	●	
B. 履きものの装飾性	B1	装飾あり	○	△	○	
	B2	装飾なし	△	●	○	
C. 素材	C1-1	布素材	●	△	●	
	C1-2	編み素材	●	—	○	
	C1-3	皮素材	○	●	●	
	C2-1	単数地	○	●	○	
	C2-2	複数地	△	△	○	
D. 縫合技術	D1	甲部中央	●	○	○	
	D2	甲部周辺	—	●	—	
	D3	踵	●	●	●	
	D4	両踝下	—	○	—	
	D5	モカシン	△	△	○	
E. 部位属性	①先端形状	E1	円頭	●	●	●
		E2	方頭	—	△	△
		E3-1	小頭	●	△	○
	②台(底)部	E3-2	高頭	—	△	—
		E3-3	突出	△	△	△
		E4	踵あり	—	△	△
		E5	踵なし	●	△	●
	③甲被	E6	底高	○	●	△
		E7-1	甲部半分	●	—	△
		E7-2	甲部全体	△	●	●
	④履き口	E8	留め具	●	△	●
		E9-1	水平	●	●	●
		E9-2	斜め	—	○	—
E10		段差	△	—	—	
E11		つまみ	—	—	—	
E12		スリット	—	△	○	
F. 間隙性	E13	折り返し	—	△	△	
	F14	甲部	—	●	●	
	F15	履き口	—	●	●	
	F16	先端	—	●	●	

●：各履きもの圏の全民族に認められる，○：各履きもの圏の一部の例外を除いて大半の民族に認められる，△：各履きもの圏のごく一部の民族に認められる，—：各履きもの圏のどの民族にも認められない。

もの、後者が閉塞性履きものを履く傾向が強いが、踵なし (E5) はいずれの履きもの圏にも共通して頻度が高い。同様に、履きもの圏Ⅰと履きもの圏Ⅱでは、前者が開放性履きものを、後者が閉塞性履きものを履く傾向が強いが、底高 (E6) はいずれの履きもの圏にも共通して頻度が高い。

7) 甲被からみたクラスター間の比較

履きもの圏Ⅰでは甲部半分 (E7-1) が頻度が高いが、甲部全体 (E7-2) の頻度は低い。一方、履きもの圏Ⅱと履きもの圏Ⅲでは甲部全体の頻度が高いが、甲部半分の頻度は低い。形態において履きもの圏Ⅰは容易に履くことが可能な開放性履きもの、履きもの圏Ⅱと履きもの圏Ⅲは閉塞性履きものを履く傾向が強くと大別したが、甲部の被覆の程度が要因となることが明らかである。

留め具 (E8) の機能は、履きもの圏Ⅰでは甲被と足を固定させることであり、履きもの圏Ⅲでは甲部中央にしているスリットを留めて保温性を高めるためである。留め具は開放性履きものと閉塞性履きものいずれにおいても認められた。

8) 履き口からみたクラスター間の比較

サンダルや浅ぐつ、深ぐつ、短ぐつ、長ぐつのいずれも横方向から観察したときには履き口が水平 (E9-1) であり、かつすべての履きもの圏で頻度が高い。一方、履きもの圏Ⅱでは斜め (E9-2) も頻度が高い。

段差 (E10)、つまみ (E11)、折り返し (E13) は三つの履きもの圏で頻度が低い。スリット (E12) は履きもの圏Ⅲで頻度が高い。

9) 間隙性からみたクラスター間の比較

履きもの圏Ⅱと履きもの圏Ⅲでは、甲部 (F14)、履き口 (F15)、先端 (F16) に共通に間隙が認められるが、これに対して履きもの圏Ⅰでは間隙性はない。

また、保温効果はモカシンを造る際にできる間隙によって得られる。そして、それらの属性が高いと認められたのは履きもの圏Ⅲであり、保温性を伴う間隙は、履きもの圏Ⅱより履きもの圏Ⅲの方が多いいえる。

クラスター分析で構成された三つの履きもの圏の分布地域は、それぞれ大きく西南地方、西北地方、東北地方に集結しており、履きもの特性がそれを製作し、使用する各民族の地域特性によって異なることが認められた。

4. 要 約

(1) 履きものの固有属性を手掛かりとした16民族

のクラスター分析によると、西南地方、西北地方、東北および全国に分布する三つの履きもの圏が構成された。

(2) 履きもの固有属性の相対頻度によって、明らかに異なる三つの履きもの圏が認められた。

(3) 各民族の履きものの固有属性は、当該民族の生業と密接に関連していた。

以上により、本研究で扱った16の民族の履きものは、生業および生活環境によって異なる履きもの圏を構成していた。これは、中国における履きもの文化を探究する上で一つの手掛かりを与えるものであろう。

なお、本研究を行うにあたり、分類方法、文献資料についてご教示いただいた、国立民族学博物館大丸弘名誉教授、同博物館田村克巳助教授、大阪松蔭女子大学衣料情報室高橋晴子氏、標本資料についてご教示いただいた、国立民族学博物館宇野文男専門官、同博物館桜井和佳子氏 (当時)、中国語についてご教示いただいた大妻女子大学人間生活科学研究所益本仁雄教授、解析についてご教示いただいた鳥取大学教育学部國土将平助教授、大妻女子大学人間生活科学研究所武川素子助手、乗馬用履きものについてご教示いただいた日本中央競馬会馬事公苑調査役の渡辺 弘氏に、深く感謝いたします。

引 用 文 献

- 1) 近藤四郎：『ひ弱になる日本人の足』、草思社、東京、56-67 (1993)
- 2) 近藤四郎：『足の話』 (岩波新書)、岩波書店、東京、176-179 (1979)
- 3) 大林太良、村田繁治、秋道智彌 (編)：東南アジア・オセアニアにおける諸民族文化のデータベースの作成と分析、国立民族学博物館研究報告別冊、11号、3-890 (1990)
- 4) 大丸 弘：固有属性分析による衣服標本カタログ、国立民族学博物館研究報告別冊、13号、10-28 (1991)
- 5) 周 汎、高 春明：『中国五千年女性装飾史』、京都書院、京都、294-307 (1993)
- 6) 近藤四郎：『岩波写真文庫はきもの1954 (復刻ワイド版)』、岩波書店、東京、34-57 (1988)
- 7) 垂水共之、西脇二一、石田千代子、小野寺孝義：『新版SPSSⅡ解析編1』、東洋経済新報社、東京、136-149 (1990)
- 8) 中国彝族服飾画冊編社組 (編)：『中国彝族服飾』、北京工艺美术出版社、北京、29-89 (1996)
- 9) 田 晓 岫：『中華民族』、華夏出版社、北京、1-760 (1991)
- 10) 中国美術家協会貴州分会、中国人民美術出版社 (編)：

- 『貴州苗族刺繡』, 美乃美, 京都, 157 (1981)
- 11) 中国四川省工芸美術研究所, 中国人民美術出版社 (編): 『四川染色刺繡』, 美乃美, 京都, 120-158 (1984)
- 12) 中国民間文芸出版社 (編): 『西南少数民族風俗誌』, 中国民間文芸出版社, 昆明, 1-350 (1981)
- 13) 杜 若甫, 葉 傳昇: 『中国的民族』, 科学出版社, 北京, 265 (1994)
- 14) 楊 知勇, 李 子賢, 秦 家華: 『雲南少数民族生活習俗誌』, 雲南民族出版社, 昆明, 386 (1992)
- 15) 華 梅: 『中国服飾史』, 天津人民美術出版社, 天津, 93-136 (1989)
- 16) 戴 平: 『中国民族服飾文化研究』, 上海人民出版社, 上海, 354-357 (1994)
- 17) 中央民族学院, 中国人民美術出版社 (編): 『中国少数民族服飾』, 美乃美, 京都, 20-221 (1981)
- 18) 上海戲劇学院中国民族服飾編委会 (編): 『中国諸民族服飾圖鑑』, 四川人民出版社, 成都, 319 (1986)
- 19) 楊 渭濱, 回 景芳, 冯 更新, 判 玉琴, 王悦义, 刘 素: 『中国少数民族概観』, 天津古籍出版社, 天津, 403-485 (1988)
- 20) 除 永齡: 『民族詞典』, 上海辞書出版社, 上海, 1-1307 (1987)
- 21) 木内信蔵: 『世界地理2 東アジア』, 朝倉書店, 東京, 146-151 (1984)
- 22) 国家民委經濟司, 国家統計局国民經濟綜合統計司 (編): 『中国民族統計年鑑 1995』, 民族出版社, 北京, 205-206 (1995)
- 23) 石川栄一, 梅棹忠夫, 大林太良, 蒲生正男, 佐々木高明, 祖父江孝男: 『文化人類学事典』, 弘文堂, 東京, 53-783 (1987)
- 24) 覃 光 広, 伊藤清司, 王 汝瀾: 『中国少数民族の信仰と習俗 (上巻)』, 第一書房, 東京, 1-390 (1993)
- 25) 覃 光 広, 伊藤清司, 林 雅子: 『中国少数民族の信仰と習俗 (下巻)』, 第一書房, 東京, 391-745 (1993)
- 26) 谷 光 宇: 『中華伝統民俗辞典』, 黎明文化事業股份有限公司, 台北, 201-211 (1991)
- 27) 曾 憲陽: 『ミャオ族の人びと—銀と藍に生きる村』, 外文出版社, 北京, 156 (1988)
- 28) Ma, Y.: *China's Minority Nationalities*, Foreign Languages Press, Beijing, 371 (1989)